

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年10月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100047
法人名	有限会社 ピースアンドハーモニー
事業所名	グループホーム ローズタウン
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田二丁目1番16号 (電話) 099-284-1582
自己評価作成日	平成23年9月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaken-shakyo.jp/kohyo
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成23年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設して6年目に入り、利用者の方も重度化してきている。スタッフもそのような重度化の利用者に対応する様、介護技術の向上の為、事業所内外で研修を行い、実践に活かす様に努めていると思う。又、地域の方に認知症を正しく、又、より深く理解して頂く様に、施設の持っている情報を積極的に発信していると思う。さらに、事業所がケアにあたって、いつも心掛けているのは「予防」と「チームケア」である。「予防」は病状の進行や、認知症の悪化を防ぐ意味があり、「チームケア」は、スタッフ一人一人のストレス軽減を目的としている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・都市型の明るいグループホームである。市の中心部の電車通りに面した4階建てビルに高齢者の支援を目的とした複合施設があり、2階と3階がホームになっている。4階は交流室を地域に開放し、ふれあいコンサートや管理者が地域の中で、認知症に対する理解を深めるための勉強会などの活動を行っている。
- ・医療機関が母体の事業所で、定期的な往診や協力機関との連携ができており、主治医から家族に利用者の情報を詳しく伝えているので、利用者や家族にとって安心できる環境となっている。
- ・町内会に加入し、地域行事や学校の運動会等に参加している。防災訓練にも地域住民が参加し交流を深めている。
- ・日常的に、外出は周辺の散歩や美容院・買い物に出かけ、また、外食や温泉入浴などの希望に応じた外出支援もしている。
- ・家族会を利用して、アンケートによって意見を聞く工夫をしている。出された要望はミーティングで話し合い、支援等に反映させている
- ・利用者は、ホームの明るく清潔感のあるリビングでくつろぎながら、ゆったりとした日々を楽しんでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく暮らし続けることをサポートする事を目的とし、事業所のスタッフで作った。施設内に掲示したり、時にふれスタッフで唱和している。	地域密着型ホームの意義を職員全員で確認し、基本的な理念を作りあげている。さらに理念を掘り下げて職員全体で話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の行事等に参加している。月2回地域の清掃をスタッフで行っている。地域の方もボランティアとして、ひな人形作りや、音楽慰問等に來てもらったりしている。	町内会に加入し、地域行事に参加したり、地域清掃をしている。小・中学校の運動会に招待されたり、ホームでの敬老会の行事には中学生が参加するなど、交流が行われている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	認知症をより深く正しく理解して欲しいとの思いで、地域の方と一緒に勉強会や各種会合で認知症に関する話をさせてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果や苦情、事故等も報告し意見や提案を頂く様にしている。またスタッフの日頃の頑張りや苦悩も伝えるようにしている。	運営推進会議は定期的開催している。家族や地域住民の代表・地域包括支援センターの職員・各事業所代表が参加している。事前に議題についての資料を送付し、有意義な意見交換の機会となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護相談員の受け入れや介護保険に関する諸相談等を行い、随時アドバイスをもらう様になっている。	認定更新の機会等や介護保険の相談などで、市の担当者をよく訪問している。利用者の暮らしぶりなどを伝え、アドバイスをもらい協力関係を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関はオートロックになっているが、街中の施設と言う事で、利用者や家族は「安心」と理解してもらっている。身体拘束はしないことを基本とし、拘束による弊害をスタッフは、勉強会などで取り上げ理解している。	都市型のマンションの2・3階にあるグループホームのため、玄関はオートロックになっている。インターホンと職員の行き届いた対応で支援し、利用者は違和感なく自由に生活している。毎月全体会議前、各ユニットで身体拘束廃止について勉強会を開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については勉強会等で理解を深める様になっている。虐待に到るスタッフの認知症理解不足やストレスにならない様に配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に制度を利用している方はいないが、勉強会などで制度について話している。当施設としては、入所時に身元保証人を4名立ててもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>具体的事例や解り易い言葉を用いて説明している。不安や希望なども聞く様にしている。後で「聞いてません」という事が無い様にしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時に「何かありませんか？」と必ずこちらから聞く様にしている。家族会の開催やアンケートの実施、又、玄関には意見箱も設置している。</p>	<p>年1回の家族会を利用し、記入式のアンケートを書いて貰い、意見を引き出す工夫をしている。玄関に意見箱を設置し、出された意見や要望等は、ミーティングで話し合い、反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員が集まる会議等にて意見を出してもらい、代表者や管理者は運営に反映する様にしている。又、職員が意見等が自由に出せる雰囲気作りに努めている。</p>	<p>代表者や管理者は、会議やミーティングの時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。新人職員には、ベテランの職員が1ヶ月間一緒に仕事をし、疑問や意見を出しやすい雰囲気を作っている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は職員の努力や実績を積極的に把握する様に努め、さらに報われるように待遇を含め環境整備に努力している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、研修の意義をよく理解しており、法人外の研修には、積極的に参加する様すすめたり、法人内の研修には、必ず、自らも参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>代表者は、当グループホームが市内の連絡会に加入し、そこで同業者との交流を行うことに理解が有り、サービスの向上に寄与している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する前には、必ず本人に面会し、本人の状態や本人の抱えている不安や希望を出来るだけ把握する様に努めている。サービス利用を開始しても繰り返し、不安や困った事を聞く様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前に、必ず面談する。本人とは違う希望や不安も受け入れる様にしている。当施設として、「出来る事」「出来ないこと」もしっかり伝える様にして、誤解が無い様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設で出来る範囲内に於いて、必要な支援を順次行っている。他のサービス利用が必要な場合は対応を検討したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護する人」「介護される人」では共に「楽しい」「悲しい」「嬉しい」等を共有出来る様に努めている。スタッフは日によって「子供」「嫁」「生徒」「同級生」「近所の人」になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会等で、家族と施設で本人を共に支えてゆく事を確認している。又、本人にとって家族の力の重要性についても話をし、理解を深めてもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅で住んでいた時の御近所さんや、自分の信仰している宗教関係の方の定期的な訪問があったり、昔努めていた職場等を見に行ったりしている。	入居前の馴染みの理・美容院や知人との関係を継続できるような支援をしている。温泉入浴、外食も計画を立て、スタッフが支援している。家族の協力で墓参りも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは出来るだけ利用者と過ごす様努めている。利用者同志の関係等を考慮している。スタッフが間に入り、トラブル予防や孤立化を防いでいると思う。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了については、必要に応じて、その後の適切な医療や福祉機関を紹介している。又、終了後の本人や家族の様子を時にふれ、聞く様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、一人ひとりの希望を把握する様に努めている。意志伝達が難しい方は顔の表情等から理解する様にしている。各スタッフが把握した利用者の希望等はスタッフ全員が共有するように心掛けている。	日々の関わりの中で様子を観察し、利用者の自己決定を尊重している。困難な利用者に関しては、家族から生活歴を聞いたり、連絡帳を利用したりして情報の共有化を図り、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から聞き取りを行い、これまでの経過等を把握する様に努めている。ただプライバシーに触れる事も有るので、慎重にする部分も有る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフが出来るだけ気付きを積み上げる様にしている。本人の持っている力などを考慮している。疾病については病院との連携を深め、把握する様にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来るだけ利用者本人の言葉でケアプランの要望は書いている。本人にとっての一番の希望を反映出来る様にしている。又、利用者に関わる、家族やスタッフの意見・要望も取り入れる様にしている。	本人や家族の要望を聞き、介護計画を作成し、6ヶ月毎のモニタリング実施とカンファレンスを開いて、支援経過や職員からの意見を含めて介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の記録は、事務的、画一的にならない様、利用者の発した言葉なども記入している。スタッフがそれぞれ得た情報は、カンファレンス等を出してもらい、評価を行い、介護計画の見直しへ継いでいる。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族が多忙な時は、諸手続等を代行する事が有る。本人の希望が有れば、自宅や墓参り、買い物等を行う。身体状況の変化が生じた場合は、それぞれ必要に応じ、専門医受診等を行う。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>利用者が安全に暮せる様に地域の消防署や警察等と連携している。又、民生委員や地域の方を含め、ボランティアなどに来てもらっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族や本人が納得した主治医が居る。主治医は必要に応じ、家族にも定期的に疾病について説明している。疾病内容により、主治医は、他の専門医を紹介している。</p>	<p>かかりつけ医の紹介と情報してもらい、協力している。月2回定期的往診があり、その他、通院は職員が支援している。協力医療機関との連携ができており、主治医から家族に情報を伝達している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>担当となっている看護師又は、利用者の通院の負担も考え施設に来てもらうことも多い。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、その利用者の情報について、安心して治療が取れる様に情報の交換を行なっている。また退院時にも本人が戸惑う事のないように状態の確認、報告などに取り組んでいる。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に、家族へ方針について共有できる様に説明を行なっている。重度化になった時の指針が有り、家族、スタッフも理解している。</p>	<p>入所時に、重度化した場合や終末期のあり方について、事業所として対応方針を定めており家族に説明し、同意をもらっている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に訓練を行なっている。また、マニュアルを作成しており、いつでも見れる様にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域の消防署の指導のもとに、様々な想定で年2回避難訓練を行なっている。</p>	<p>マニュアルを作成し、年2回、消防署の協力を得て、利用者と共に避難訓練を行っている。地域住民の協力体制もできており、非常用食料や備品の準備もされている。地震についても対策済みである。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内外研修として勉強会などでも取り組んでいる。また、日々の声掛け等についても職員で意見交換などしている。	日々のケアの中で、利用者の尊厳とプライバシーに配慮しながら、さりげないケアや言葉かけに努めている。職員の採用時、個人情報保護についての誓約書もとっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	体調などが関係してくる事項については自己決定が難しいこともあるが、衣類の選択や食事についても利用者に聞く事をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースは大切にしている。全てが希望どおりにする事が必ずしもその方の為になるとは限らないが、出来るだけ希望が出る様に会話を大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	化粧品など定期的に購入している。また、更衣時など出来るだけ本人さんへ聞く様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	役割になっている事、出来る事をしてもらい食事をしている。また、メニューについては何が食べたいか聞いて作るなど取り組んでいる。	利用者の希望を聞いて献立を作り、調理・後片付けなど、利用者と職員が一緒に行っている。敬老会には、希望で寿司の出前を取り、楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェック表で確認し、一日を通じて確保出来る様に、捕食等取り組んでいる。取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方、出来ない方、確認が必要な方など一人一人の状態に合わせた支援を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録表、チェック表等活用し、尿意のない方には時間を決め、さりげなく誘導する等、支援をしている。	自尊心に配慮し、トイレでの排泄を大切にしている。記録表やチェック表等を活用し、トイレで排泄できるよう支援したり、排泄の自立を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、運動量のチェック、毎朝ヨーグルトを摂取するなど、薬以外でも取り組んでいる。薬についても、かかりつけ医と相談しながら便秘にならないように薬の調整に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日については決まっている。希望の時間がある方は、その時間でも入ってもらっている。また、羞恥心や恐怖心等に気を付け、誘導の方法なども検討し、取り組んでいる。	日曜日を除いて週3回、個々の希望を取り入れた入浴ができるように、支援している。異性の職員の介護の時は利用者の心情に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ昼寝等が長くなり過ぎないように等、1日のリズムをつくる様取り組んでいる。また安眠できない方にはかかりつけ医に相談し安眠できるよう眠剤の服用をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用などしっかり把握し、いつでも服用の薬について確認できる様にファイルしている。また、新しい薬などによる変化が無いかなどしっかりと観察し、かかりつけ医に報告し、対応してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>決まった役割、仕事、楽しみ事など有る。また外出など希望があれば計画し担当のスタッフなどと外出している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>希望に沿っての外出など、家族の協力をもらい出掛けてもらう事も取り組んでいる。希望がある場合は職員で検討し、出来るだけ外出できるよう時間を作っている。</p>	<p>日常的には、周辺の散歩や買い物等を行っている。また、外食・温泉入浴など、戸外に出かける機会の支援をしている。家族の協力をもらいながら、利用者の希望や楽しみに合わせて外出支援をしている。年間計画の行事については、家族に通知し、参加を呼びかけている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望があれば預かり金より使えるようにしている。所持することはない。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>定期的に電話をしている方もいる。自ら電話は掛ける事が出来ないのこちらから声を掛けることもある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ共用の場については刺激が無い様に配慮している。ボードを使い現在の月日を感じられる様取り組んでいる。	玄関には、季節の飾り物が置かれ、ベランダでは花が植えられている。リビングにはソファがあり、仏壇が設置された和室等、思い思いにゆったりと過ごせるように配慮してある。湿度設定をした空気清浄器もあり、居心地のよい共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごされている。気の合った利用者同士でよく居るが特に居場所の工夫はしていない。何もしない事が嫌そうな時などはこちらから声を掛け、手伝い等してもらっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物など居心地良く過ごしてもらえるように、本人や家族へ相談し持ってきてもらっている。神棚や三味線、観葉植物等書室に置いている。	居室は、利用者の使い馴れた家具や鏡台等が置かれ、棚には家族の写真や花等で好みの飾りつけがなされ、利用者が落ち着いて過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ自立した生活が送れるように各居室に洗面台などはあるが特に工夫についてはしていない。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない